

平成28年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール研究実施報告（第2年次）（概要）

1 研究開発課題名	<p>社会人基礎力を備え、地域社会に貢献できる看護師の育成</p> <p>－ 5年一貫で看護師を目指す高校生の人間としての成長をサポート －</p>				
2 研究の概要	<p>地域唯一の看護師養成校であり、国家試験合格のみでなく、多様な対象者に対応できる能力を備えた人材の安定的な輩出を期待されている。</p> <p>今回、経済産業省の社会人基礎力に注目した。社会人基礎力とは、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力と提唱されている。社会で看護師として働くためには、基礎学力、専門知識技術と、それらをうまく活用していくための「社会人基礎力」が重要であると言われている。豊かな人間性や基本的な生活習慣は、全ての基盤であり、様々な経験や活動を通して、相互に影響し合いながら高まっていく。5年一貫で看護師を目指す高校生の人間としての成長を願い、「豊かな人間性」「課題解決能力」「社会人基礎力」の育成のために三つの柱で様々な取り組みを行った。特に、今年度は、看護学生として地域貢献を意識して取組んだ。対象は看護学科であるが、学校全体の取組みとなるよう心掛けた。</p>				
3 平成28年度実施規模	看護学科を対象として実施した				
4 研究内容	<p>○研究計画（指定期間満了まで。5年指定校は5年次まで記載。）</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%;">第1年次</td> <td> <p>【豊かな人間性】</p> <p>a 異学年交流 b 立命館アジア太平洋大学（APU）国際学生との交流 c 人権教育</p> <p>【課題解決能力】</p> <p>a 教員研修 反転授業・シミュレーション教育研修</p> <p>b 反転授業・シミュレーション教育 c 認定看護師等による特別講義</p> <p>【社会人基礎力】</p> <p>a 特別活動 b ボランティア活動 c 社会人基礎力調査・生活習慣調査</p> </td> </tr> <tr> <td>第2年次</td> <td> <p>【豊かな人間性】</p> <p>a 人権教育 ①宗教授業、校父母祭法要・記念講演会 ②ナイチンゲール生誕祭</p> <p>b 異学年交流 ①1～3年交流会 ②1～3年縦割り班によるグループ活動</p> <p>③1・3年、2・3年実習前交流会</p> <p>④5年助言による1年他クラスへの手洗い指導実施</p> <p>c 立命館アジア太平洋大学（APU）国際学生との交流</p> <p>①APU 国際学生との交流 ②APU 国際学生を招待しての交流</p> <p>③APU 交流について5年生へ学びの報告</p> <p>【課題解決能力】</p> <p>a アクティブラーニング</p> <p>①アクティブラーニングを取入れた授業の実施</p> <p>②外部研修 / 1・2年生、全教員</p> <p>b 認定看護師等による特別講義</p> <p>【社会人基礎力】</p> </td> </tr> </table>	第1年次	<p>【豊かな人間性】</p> <p>a 異学年交流 b 立命館アジア太平洋大学（APU）国際学生との交流 c 人権教育</p> <p>【課題解決能力】</p> <p>a 教員研修 反転授業・シミュレーション教育研修</p> <p>b 反転授業・シミュレーション教育 c 認定看護師等による特別講義</p> <p>【社会人基礎力】</p> <p>a 特別活動 b ボランティア活動 c 社会人基礎力調査・生活習慣調査</p>	第2年次	<p>【豊かな人間性】</p> <p>a 人権教育 ①宗教授業、校父母祭法要・記念講演会 ②ナイチンゲール生誕祭</p> <p>b 異学年交流 ①1～3年交流会 ②1～3年縦割り班によるグループ活動</p> <p>③1・3年、2・3年実習前交流会</p> <p>④5年助言による1年他クラスへの手洗い指導実施</p> <p>c 立命館アジア太平洋大学（APU）国際学生との交流</p> <p>①APU 国際学生との交流 ②APU 国際学生を招待しての交流</p> <p>③APU 交流について5年生へ学びの報告</p> <p>【課題解決能力】</p> <p>a アクティブラーニング</p> <p>①アクティブラーニングを取入れた授業の実施</p> <p>②外部研修 / 1・2年生、全教員</p> <p>b 認定看護師等による特別講義</p> <p>【社会人基礎力】</p>
第1年次	<p>【豊かな人間性】</p> <p>a 異学年交流 b 立命館アジア太平洋大学（APU）国際学生との交流 c 人権教育</p> <p>【課題解決能力】</p> <p>a 教員研修 反転授業・シミュレーション教育研修</p> <p>b 反転授業・シミュレーション教育 c 認定看護師等による特別講義</p> <p>【社会人基礎力】</p> <p>a 特別活動 b ボランティア活動 c 社会人基礎力調査・生活習慣調査</p>				
第2年次	<p>【豊かな人間性】</p> <p>a 人権教育 ①宗教授業、校父母祭法要・記念講演会 ②ナイチンゲール生誕祭</p> <p>b 異学年交流 ①1～3年交流会 ②1～3年縦割り班によるグループ活動</p> <p>③1・3年、2・3年実習前交流会</p> <p>④5年助言による1年他クラスへの手洗い指導実施</p> <p>c 立命館アジア太平洋大学（APU）国際学生との交流</p> <p>①APU 国際学生との交流 ②APU 国際学生を招待しての交流</p> <p>③APU 交流について5年生へ学びの報告</p> <p>【課題解決能力】</p> <p>a アクティブラーニング</p> <p>①アクティブラーニングを取入れた授業の実施</p> <p>②外部研修 / 1・2年生、全教員</p> <p>b 認定看護師等による特別講義</p> <p>【社会人基礎力】</p>				

	<p>a 調査 ①在校生と卒業生の社会人基礎力調査 ②家庭における生活習慣調査</p> <p>b 5年 キャリア講座 c ボランティア活動</p> <p>d 健康教育 ①運動に関する講演及び実技指導 ②4年 ウォーキング推進活動</p> <p>③5年 臨地実習、教育学演習、近隣寺院における健康教育</p>
第3年次	<p>【豊かな人間性】</p> <p>a 人権教育</p> <p>①宗教授業、校父母祭法要・記念講演会</p> <p>②ナイチンゲール生誕祭・記念講演 5月12日（金）</p> <p>b 異学年交流</p> <p>①1～3年縦割り班によるグループ活動 ②1・3年実習前交流会</p> <p>③5年助言による1年他クラスへの手洗い指導実施</p> <p>④2年生 APU 交流について5年生へ学びの報告</p> <p>c 立命館アジア太平洋大学（APU）国際学生との交流</p> <p>①APU 国際学生との交流 ②APU 国際学生を招待しての交流</p> <p>【課題解決能力】</p> <p>a 主体的・対話的な学び</p> <p>①主体的・対話的な学習活動（1～5年）</p> <p>* ICT活用についての校内教員研修（2回）・・・新規</p> <p>②講義 5月11日（木）1年生：「仲間と共に伸びる学び方」安永 悟先生 11月9日（木）研究授業及び教員研修（安永先生授業参観後、研修）</p> <p>b 特別講義</p> <p>1年① 7月 看護専門職の話を聴く会（保健師・助産師・認定看護師など）</p> <p>②10月 感染管理認定看護師による特別講義（標準予防策、手指消毒法）</p> <p>2年 9月 皮膚・排泄ケア認定看護師による特別講義（皮膚の生理機能をふまえた清潔の援助）</p> <p>3年 9月 摂食・嚥下障害看護認定看護師による特別講義・・・新規</p> <p>【社会参画力】</p> <p>a プレゼンテーション講座（4・5年）・・・新規</p> <p>b 健康教育</p> <p>①運動に関する講演及び実技指導（1～5年）</p> <p>②ウォーキング推進活動（4年）</p> <p>ウォーキングコース体験及び動画作成、11月16日（木）発表会</p> <p>③5年臨地実習、教育学演習（日田市高齢者教室）、近隣寺院における健康教育</p>
第4年次	<p>前年度成果の改善実施</p> <p>健康ひた21計画にそった『健康昭和21』の展開</p> <p>大分県・日田市との連携、日田市健康福祉祭り協力</p> <p>健康教育：楽しく運動、日田市民・大分県民の健康増進に貢献します！</p>
第5年次	<p>前年度成果の改善実施</p> <p>健康ひた21計画にそった『健康昭和21』の展開</p> <p>大分県・日田市との連携、日田市健康福祉祭り協力</p> <p>健康教育：壮年期・老年期の健康増進に貢献します！</p> <p>栄養・食生活の取り組みー調理科との連携</p> <p>在宅認知症高齢者オレンジカフェ日田への協力ー福祉科との連携</p>

○教育課程上の特例（該当ある場合のみ）

○平成28年度の教育課程の内容（平成28年度教育課程表を含めること）

≪基礎看護≫

	期日	学年	科目（時間）	内容
高校	9月	2年	基礎看護技術／感染防止の技術	個人防護具（PPE）タブレット撮影
	1月	2年	基礎看護技術／排便を促す援助	グリセリン浣腸 タブレット撮影
	10月	3年	臨床看護概論／呼吸・循環に関する症状を示す患者の看護	シミュレーション タブレット撮影
	11月	1年	基礎看護技術／清潔の援助	足浴 協同学習
専攻科	5～7月	4年	看護学概論／白血病患者の看護	事例による看護過程の展開
	5月	4年	基礎看護学技術／薬物療法（点滴静脈内注射）、検体検査－採血	演習
	6月	4年	基礎看護技術／導尿	シミュレーション
	7月	4年	基礎看護技術／食事援助技術（経管栄養チューブ挿入）	演習 シミュレーション 協同学習

≪健康教育≫

専攻科	8～11月	5年	教育学／生涯学習	日田市高齢者教室に参加し健康教育実施 事前にビデオ撮影し、改善後実施
	5月	4年	成人看護学概論（1） 老年看護学概論（1）	講義／健康日本21 西部保健所地域保健課 力徳課長
	5月	4・5年	体育（2）	講演／運動に関する講演及びスロージョギング 九州大谷短期大学 永山先生
	6月	4年	老年看護学概論（2）	講演／健康ひた21 日田市健康保険課 川内課長補佐
	6月	4年	情報（2）	講義／動画作成 情報科教員
	6月	4年	体育（4）	日田市ウォーキングコース体験
	7月～	4年	情報処理（8）HR（5）	ウォーキング推進活動、動画作成
	9月	4年	情報（2）	ウォーキング推進活動クラス発表会（代表選出）
	11月	4・5年		（学園祭）健康教育の取組み発表
11月	4年		ウォーキング推進活動発表会	

○具体的な研究事項・活動内容

【豊かな人間性】

- ・ 1～5年 ナイチンゲール生誕祭・講演：「生き方」佐藤 剛史氏（5月12日）
- ・ 1～3年交流会（6月7日）及び縦割り班活動（6月～2月）
- ・ APU(立命館アジア太平洋大学)国際学生との交流（7月13日）
- ・ 3年による1年臨地実習前 身だしなみチェック（9月6日）
- ・ 2年臨地実習前に3年生と交流（9月20日）
- ・ 人権教育 校父母祭法要・講演：「ほんとうのよろこび」吉元信暁氏（10月28日）
- ・ 宗教の授業（4月～2月）
- ・ APU(立命館アジア太平洋大学)国際学生を招待しての交流（11月16日）
- ・ 5年助言による1年他クラスへ手洗い指導（12月7日）
- ・ APU(立命館アジア太平洋大学)国際学生との交流の学びを5年生に発表（12月9日）

【課題解決能力】

- ・ 研修

①全職員対象 講師招聘による研修 2回

「アクティブラーニングと協同学習」(5月19日)久留米大学文学部教授 安永 悟 先生
および研修を受けて教科内協議(全教科)(6月~7月)、ALを取り入れた授業の実施
2回目は、研究授業後に研修実施(11月17日)

②1・2年生対象「仲間と共に伸びる学び方」(6月16日)久留米大学文学部教授 安永 悟 先生

③外部研修

「今どきの若者の“論理的思考力”を高める教育法」(6月25日)ノトコード 平林 慶史 氏

・特別講義

①1年 看護専門職者の話を聴く会(7月13日)

②2年 基礎看護「皮膚の構造・機能をふまえた清潔援助、褥瘡・創傷ケア」(9月16日)
大分県済生会日田病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 馬野 美紀 様

③1年 基礎看護「感染予防について~正しく覚えて実践しよう~」(10月25日)
大分県済生会日田病院 感染管理認定看護師 森山 由香 様

【社会人基礎力】

・調査 ①第1回社会人基礎力調査・KiSS-18調査(5月) ②第1回生活調査(7月)

③卒業生の社会人基礎力調査(11月) ④第2回社会人基礎力・KiSS-18調査(12月)

・5年 キャリア講座 大分市医師会立アルメイダ病院 看護部長 甲斐 仁美 様(7月21日)

・ボランティア活動

・健康教育

①運動に関する講演及び実技指導

4・5年 九州大谷短期大学 永山 寛 先生(5月21日)

1~4年 福岡大学身体活動研究所 畑本 陽一 先生(6月21日)

②4年 ウォーキング推進活動

ウォーキングコース体験及び動画作成、ウォーキングコース紹介動画発表会(11月18日)

③5年 臨地実習/日田市役所、教育学演習/成宜大学(日田市高齢者教室)における健康教育

④5年 近隣寺院における健康教育

5 研究の成果と課題

○実施による効果とその評価

【豊かな人間性】

ナイチンゲール生誕祭は、4段階評価のアンケートで「そう思う」が「主体性・自己肯定力」は80%を超え、効果的な行事といえる。感想からは、低学年は今後の自分のあり方を考え、高学年は振り返り見つめ直しモチベーションを高める良い機会になった。また、学生発表後の講演は、感想から良い刺激となったと推察できる。

校父母祭・講演は、1年生は初めて参加する行事であり、創業者や学校の建学精神に触れた内容が多く、高学年は講演内容の「縁」や「人生の生き方」などについての感想が多く見られた。

様々な異学年交流を行った。1~3年交流会は、アンケート結果で「主体性・自己肯定力・協調性」の「思う・だいたい思う」が全て80%を超えており、交流会は効果的であるといえる。これを、縦割り班活動の基本と位置づけさらに取組んで行く。1・3年、2・3年実習前交流会は、上級生は、全員が肯定的にとらえている。後輩に激励をし、自分を振り返る機会になっている。下級生は、身だしなみについての助言を素直に聞くことができ、実習でどのようにすべきかアドバイスを受け実行することができた、身だしなみだけでなく質疑応答で得た情報が実習で役立ったと思った生徒が多く、不安の軽減にもつながっていた。実施する技術を聞き、前もって予習復習することができた(多数)など主体性にもつながっている。このような機会は必要であると考え。5年生の助言を受け1年生が他クラスへ手洗い指導を実施した。アンケート結果より、温かい態度で経験を生か

して助言したことが見て取れた。良いところは褒め、改善点も具体的に示し助言していた。助言を生かして発表の練習をし、他のクラスへの指導に堂々と臨むことができた。生徒にとって達成感があり、自信となり看護師になりたいという意志が強くなったようである。それ以来、発表しなかった生徒が発表したり、大きい声で発表するなど成果があった。「主体性・協調性・自己肯定力・倫理性」に有効であった。

A P U国際学生との交流を7月と11月に行った。活動は生徒が考え行動し、生徒主導の取組みであった。この交流では自国の医療の現状の質問等でも英語で話すことに取り組んでおり「主体性・協調性」につながったと考える。国際学生の出身国や、国の情勢などを調べ、「他者理解・倫理性」にもつながった。感想から非言語的コミュニケーションでも十分に意思疎通ができることを実感しており、今後の実習等にも生かすことの出来る経験ができたと考える。

【課題解決能力】

今年度は活動性を高める授業づくりを目指し、久留米大学 安永悟先生の研修を生徒・教員ともに受け教科内で協議し、生徒が主体的に学ぶ授業に取り組んだ。協同学習をふまえてのグループ活動、タブレットや視聴覚教材を活用しての取組み等、様々な技法を用いて授業を行った。教員の意識も高まり、活動的な授業が多くなった。生徒の感想でも「分からないことを教え合い、一緒に問題を解決することが出来た。」等、肯定的な感想が多く、積極的に授業に参加して内容の理解が容易になり充実感を得る生徒が多くなった。さらに、グループ活動やタブレットを活用して振り返ることで学びを深めることが出来た。授業アンケート結果では、80%以上の生徒が「授業中、考えて取り組むことが出来た。意見を言うことが出来た。」と答えており、考える力や話す力を身につけることが出来たが、「事前学習への取組み、進んで学習に取り組む」ことは不十分であった。また、自主学習時間調査を行い1学期と2学期で比較した。学年により差はあるが考查期間中の学習時間は80%の生徒が増加したが、通常授業期間における学習時間の増加は50%にとどまった。予習や事前課題の取組みが十分でなく自主学習の定着が図れていない。身についた力について、4段階評価のアンケート結果で「十分あてはまる・まあ当てはまる」が「課題発見力」は80.8%、「計画力・創造力」は、69.2%であった。課題発見力については、大半の生徒が自分の課題を見つけることが出来ているが、それを解決するための行動に移せていない現状であった。

次年度は、さらにICTを活用した授業の実施を浸透させていきたい。また、自主学習の定着が図れるようICTを活用した事前・事後学習の取組みを検討していきたい。以上のことが事前学習や自主的な学習に取り組むことになり、課題解決するための行動につながることを期待する。

特別講義として実習病院や地域で活躍している認定看護師等から講義を受けた。講義終了後は、「直接話を聞くことで具体的に内容を理解することが出来た」「夢が広がった気がして、もっと勉強を頑張ろうと思った」「将来、認定看護師を目指したい」等の感想があった。アンケート結果では、全ての特別講義で内容の理解度が90%以上を示していた。特別講義および研修ともに有意義なものであり今後も継続して行っていきたい。

【社会人基礎力】

「発信力」は、様々な人と関わる中で高まると考えている。部活動加入やボランティア活動の推進、5年生は健康教育を行なった。また4年生は新たにウォーキング推進活動に取り組んだ。結果として、1～3年生の部活動加入率は、各クラス50～94%だった。ボランティア活動は、1年生は全員参加、4・5年生は半分参加、2・3年生については青少年赤十字クラブや生徒会以外の者は、ほとんど参加していなかった。昨年同様に、「交通手段の問題」「部活動、実習、講義等で忙しい」等の意見が出ていた。ボランティア活動に参加し、多くの学びはあるが、発信力を養うSPH事業としては難しい。4年生のウォーキング推進活動と5年生の住民に対する健康教育は、準備を含めた場面の中で発信力について自己評価した。「そう思う・どちらかと言えば思う」を選択した学生は、4年生62%、5年生86%だった。できなかった理由は、自分の考えをまとめることや相手にわかりやすく伝えることが難しい・アイデアが浮かばない等が挙がっていた。4・5年生共に約半年間の

活動の中で、お互いに意見を出さなければ準備は進まない。できなかった部分はあるが、発信力を鍛えるよい機会になったと考える。社会人基礎力能力要素の中で発信力の全学年の平均値は、創造力の次に低く5月1.89、12月2.18だが、有意差があり($p < .001$)、本取組みは有効であった。

「自己管理能力」については、健康ひた21の中で思春期の運動に関する3項目の結果が悪化していた為、まずは本校の状況について4年生が6月と10月に調査した。結果は、「体を動かすことが好きな人」「自分の好きな運動があり実施している人」はともに2回目は上昇し69%と37%だった。「週に3日以上運動する人」は25%だった。生徒・学生達は、予想以上に運動していなかった。学年目標の三食きちんと食べるは、「とてもそう思う・どちらかと言えばそう思う」を選択した生徒学生は、87.6%だった。三食と運動で体力をつけ、体調を整えることが必要である。

「ストレスコントロール力」について、5年生はキャリア講座を実施した。国際看護を学び、自分の将来像や人生設計を描くきっかけになったが、ストレスコントロール力とは結び付きにくかった。今年度初めて卒業生の社会人基礎力調査を実施した。社会人基礎力能力要素について、卒業生の自己評価と病棟管理者の他者評価を調査した。自由記述では、卒業生と管理者共に「周囲の人に相談する、声をかける」「意思表示をきちんとする」が多く挙がっていた。特に卒業生は、「先輩とコミュニケーションがとれれば悩みも軽くなる」「何でも相談することが必要」と記入していた。ストレスをコントロールするために本校の卒業生はもっと発信力を鍛える必要があることが明らかになった。今年度は、菊池が作成した社会的スキルの評価表「KiSS-18」を調査した。社会人基礎力では全ての項目に有意差があったが、具体的な場面が提示されているKiSS-18では、攻撃にかかわるスキルとストレスを処理するスキルが低いことがわかった。各自、ストレス発散方法は持っているが、ストレスを発散しながら対峙することには繋がっていない学生がいることが明らかになった。

文部科学省の平成28年度「SPH事業における共通的な評価指標」を用いた4段階の質問紙調査では、「本取組みにより学ぶ意欲が高まったと思う」は21.8%、「どちらかと言えば高まったと思う」は67.0%で合わせると88.8%となった。同調査で、「課題に対して解決方法を自分で考え、行動する力が高まったと思う」または「どちらかと言えば思う」は82.9%、「学びを通じて、新たな知識・技術を習得することができ、自分のスキルアップにつながったと思う」または「どちらかと言えば思う」は82.9%、「学びを通して、新たな知識・技術を習得することができ、自分のスキルアップにつながったと思う」または「どちらかと言えば思う」が94.2%、「自分の将来の職業に対する意識が高まったと思う」または「どちらかと言えば思う」は85.7%であった。8割以上の生徒学生が、様々な取組みにより授業や実習等に主体的に取り組む意欲、課題解決力、知識・技術の習得、職業観の変化に効果があったと評価している。また8割以上の保護者がSPH事業について生徒の変化、SPH事業に対する全体評価、地域活性化で効果があると評価した。さらに8割以上の教員がSPH事業により生徒の変化、学校全体の変化があったと評価している。今年度SPH事業は有効であったととらえる。

次年度も文部科学省の共通的な評価指標及び在校生(1~5年)と今年度卒業生の社会人基礎力調査を実施し、SPH事業の有効性について検証したい。

○実施上の問題点と今後の課題

高校では火曜7限目をSPHの活動時間として設定し、活動しやすかったため継続する。

豊かな人間性・課題解決能力・社会人基礎力の3つの柱で様々な取組みを行っている。大半の生徒が有効とする中に「看護師になりたいと思う反面、本当になれるか不安が大きくなった。自信が無くなる。どの様に取組んだら良いかわからない時がある。」とSPH事業を有効とは感じない生徒が、少数ではあるがいることがわかった。SPHの取組みの一つ一つが看護師として働く上でどのように必要なか習得する能力が具体的にわかるように示すこと、各取組が相互につながっているのがわかるように示すことが必要と考える。また、実施後のアンケートの結果について生徒にフィードバックし、成果と課題を自覚させる取組が必要である。